

■川村清雄 画家。明治初期に欧米に渡って習得した堅実な油絵技法によって日本画を描き、独特の画風を示した。

かわむらきよお

万次郎帰国・1852＝

江戸麹町表二番町で、御徒頭川村帰元修正の長男に生まれる。母はたま。通称清兵衛、諱は修寛。

ペリー来航・1853＝1歳：

川村家は御庭番の家系で、祖父修就は初代新潟奉行・大坂町奉行・長崎奉行などを歴任、後に勝海舟が三河武士の美風を残した侍の一人として挙げているほど優秀な幕臣だった祖父の活躍が長く、父はあまり出世できないなかで育つ。絵を描くのが好きで、祖父はまた絵画に関する造詣が深く、赴任先の土地の優秀な画家たちに多くの作品を描かせたという。姉三人妹三人に挟まれた唯一人の男子として、祖父に可愛がられ、おそらく絵が好きで上手いのを見抜いた祖父の意向で、

安政の大獄・1859＝7歳

江戸の土佐派絵師住吉内記に入門、

桜田門外変・1860＝8歳：

遣欧使節・1861＝9歳：

祖父の大坂東奉行就任に伴い大阪に赴き、南画家で田能村竹田門下の直入に教えを受け、

8月18日政変 1863＝11歳：

祖父とともに江戸に戻ると、英学を学ぶつもりで旗本お決まりのコース開成所に入が、画学局の授業に興味を抱き、川上冬崖・高橋由一らから西洋画法を学ぶ。

この頃は当然のように父達の跡をつづぐものと考えており、将来画家になるとは思っていなかったが、

明治維新・1868＝16歳

幕府が瓦解、川村家は職を失い屋敷も返上。徳川家達の奥詰に抜擢され、

戊辰戦争終・1869＝17歳

家達に従い静岡へ移住。静岡移住士族の美男美女番付で前頭に名が載るほどで、周囲から可愛がられ、

初の日刊新聞1870＝18歳

小姓仲間たちと、幕府重臣の「大久保一翁・勝海舟らに海外留学を願ひ出、

廃藩置県・1871＝19歳：

徳川宗家給費生として渡米。政治や法律を学ぶためライリンの学校に入学、アカデミースクールの寄宿舎を経て、ミシガン大学に入学。画才を認めた女教師から画家を志すことを勧められ、煩悶するが、この年、義姉縫子が江原素六と結婚。「同地にいた外山正一の示唆得て決断、本国の許可を得て、日本公使館の書記官で画家のチャールズ・ランマンに師事、進歩が速く、森有礼にも褒められ、この時、ランマン宅に寄宿していた津田梅子の看病をし、麻疹をうつされて困ったという。

学問のすすめ1872＝20歳：

渡仏しパリへ転じる。この年、明治政府は海外留学生の一斉帰国を命じられるが、延期願いととも滞仏作品を徳川家に送り、桂川甫三の弟藤沢次謙の激賞もあって、私費留学生として残る。

明治6年政変 1873＝21歳

コロニーを訪問したとも言われ、後の風景画にその影響を見ることが出来る。

佐賀の乱・1874＝22歳

「静物写生」、

初の民間工場1875＝23歳

パリで一緒に生活し、一足先に帰国していた宇都宮三郎が紙幣頭の得能良介に推薦してくれたおかげで、紙幣寮官費留学生として採用される。「イタリアに移り、ベネチア美術学校に入学。

三つの反乱・1876＝24歳

コンクールで一等賞をとる一方、学友にせがまれて日本画を描いて驚嘆され、

西南戦争・1877＝25歳

若死した緒方洪庵の次男の後を受けて、ベネチア高等商業学校で日本語教師にも就任。この年開催された「パリ万国博覧会」を見学して、ジャポニスムの沸騰も背景に、日本美術の価値を再認識、

大久保暗殺・1878＝26歳

琉球処分・1879＝27歳：

「少女像」「ヴェニス」「ベニス風景」などを描く間、再三の留学延期願いが却下され、

明治14年政変1881＝29歳

*恩人のスペイン画家リコルテガから'日本人たれ'と餞の書簡をもらって、帰国。日本の西洋化ぶりに愕然とし、失われた日本を取り戻そうと、以後、和服で通し、日本画様式に取組むことに挑戦、

新体詩抄・1882＝30歳

印刷局の彫刻技手となるも、外人技師キヨソネとの確執の上、女工と職場恋愛して得能の怒りを買ひ、

岩倉具視没・1883＝31歳

辞職。その女工と結婚もして生活に困っていたところ、「勝海舟の助け船で、徳川家代々の肖像画制作を依頼され、さらに勝邸に画室「心華書房」を建設してもらい、顔が児童のようだと「時童」の号を与えられ、

秩父事件・1884＝32歳

「天璋院像」「昭徳院(徳川家茂)肖像」「勝海舟像」など描くうちに自信も芽生え、

内閣発足・1885＝33歳

結局、貧乏が原因で離婚、小説のタネに。*「勝海舟江戸城開城図」。"心華書房"で画塾も開く。

初の対等条約1888＝36歳：

日本画に押されてきた洋画家による{明治美術会}創立に参加、

帝国憲法発布1889＝37歳

油絵の出品が認められた第3回内閣勲業博覧会では、門下生2人が受賞。

帝国議会始・1890＝38歳

「雲龍図」、

足尾鉾毒始・1891＝39歳

この年刊行された「旧事踏聞録」に、父が自身の体験を詳細に語り、御庭番に関する貴重な記録を残す。江原素六の斡旋で、藩閥政治に反感をもつ旧幕臣たちや実業界にもファンを獲得。「有徳院(徳川吉宗)肖像」。

大本教・・・1892＝40歳

勝を介して、海軍関係者14人の肖像画を描いて多くのファンをつくり、

日清戦争始・1894＝42歳

この頃には、勝邸の画室を退去。

白馬会・・・1896＝44歳

この年東京美術学校に設置された西洋画科には幕臣出身だったためか加わっていない。

八幡製鉄始・1897＝45歳

「海戦図」はじめ、多くの海軍関連の作品を制作。

子規句歌革新1898＝46歳

3度目の妻とも離婚。「貴賤図」。福澤諭吉の肖像画に着手、後藤宙外のインタビューに祖父について談話、

Bushidou・・・1899＝47歳

この年以前「海底に遺る日清勇士の髑髏」。「室内」。*勝海舟が死去すると、勝に献ずべく「かたみの直垂」制作に着手する一方、日本初となる個展も開催するが、諸紙誌で批判され落胆、自暴自棄になるが、やがて自らの信念によって描くという境地に達し、依頼された(新小説)の表紙を担当し始め、

ビアノ産産化・1900＝48歳

「福澤諭吉肖像」、

田中正造直訴1901＝49歳

{明治美術会}解散となるなか、浅井忠の配慮で第1回関西美術展に出品し、

教科書疑獄・1902＝50歳

同志と{巴会}を結成。

日露戦争終・1905＝53歳

伊原青々園と後藤宙外による諸作家の創作逸話インタビューをまとめた「唾玉集」が刊行される。

満鉄発足・・・1906＝54歳

文展の準備となった東京勲業博覧会の西洋画部委員に任命されるが、審査員の大半が黒田清輝以下薩摩藩で占められていることに憤慨して、辞任。新聞に発表して、広く支持されたことから自信も深める。

韓国併合・・・1910＝58歳

ようやく良き伴侶ふくを得る。「この年まで断続的に6年間(新小説)の表紙を担当。筆を入れ続けてきた「かたみの直垂」がようやく完成。

大逆事件判決1911＝59歳

母が死去、衝撃を受けた父も死去して茫然自失となるも、伝統に乗っ取った葬儀を営んで敬意を表される一方、長男が誕生して、以後、幸せな生活を送るが、

明治天皇没・1912＝60歳

この間、「水辺の楊柳」「緑蔭牧牛図」「滝」「ヴェネツィア風景」「素戔嗚尊・大蛇退治図屏風」、

21ヶ条要求・1915＝63歳：

妻が病に倒れ、看病空しく死去。以後、後妻を娶らず、一人で長男を育てる。

ベル仁条約・1919＝67歳

「紫雲観音」。

原敬首相暗殺1921＝69歳

明治天皇を聖徳記念絵画館を飾る80人の画家の一人に選ばれて、「振天府」に着手、

関東大震災・1923＝71歳

この年以前「村上彦四郎」、

護憲三派圧勝1924＝72歳

東京上野の日本美術協会で(川村清雄画伯全作品展覧会)開催、その時展示された「ヴェネツィア風景」を見た

治安維持法・1925＝73歳

東洋学者シルヴァン・レヴィが驚嘆、その発意で、

円本時代始・1926＝74歳

この年以前、「まな・あらな」、喜寿記念の個展で、「建国」を出品し、フランスの美術館に收藏される。

金融恐慌・・・1927＝75歳

「振天府」が完成。「ヴェネシスのバイオリン弾き」、

世界恐慌・・・1929＝77歳

国際連盟脱退1933＝81歳

天理教からの依頼で天理市に赴き、教組中山みきの肖像画制作に着手、

満州事変・・・1931＝79歳

*現地で打ち込むうち、脳血栓により、没した。

国際連盟脱退1933＝81歳

ほかに「芍薬」、

帝人疑獄事件1934＝82歳

インターネットWikipedia, 林えり子「福澤諭吉を描いた絵師」、